

平成26年度

足立・荒川 安全衛生推進大会

Safe Work ADACHI・ARAKAWA 2014



日時

11月6日(木)

13:30~16:00

会場

ムーブ町屋

ムーブホール

荒川区荒川7-50-9

特別講演

知っておきたい腰痛の知識
医学博士 松平 浩

- ・ 腰痛の85%は非特異的腰痛
- ・ 非特異的腰痛は対人関係のストレスも原因
- ・ 腰痛によっては、早期の運動治療が効果的
- ・ 腰痛とメンタルの関係
- ・ 腰痛対策の秘訣



第12次労働災害防止計画推進中

主催

足立労働基準監督署／ 足立荒川労働基準協会／ 建設業労働災害防止協会東京支部足立・荒川分会
陸上貨物運送事業労働災害防止協会東京都支部会足立支部
陸上貨物運送事業労働災害防止協会東京都支部会荒川支部／ 荒川足立ハイタク労務研究会
足立荒川木造家屋等低層住宅建設工事災害防止協議会／ 足立・荒川地域産業保健センター

協賛

一般社団法人足立区医師会／ 一般社団法人荒川区医師会／ 東京都社会保険労務士会足立荒川支部
足立労働保険事務組合協議会／ 東京商工会議所足立支部／ 東京商工会議所荒川支部

大 会 次 第

1 主催者挨拶

横川 峰一 足立労働基準監督署長

井上 浩 足立荒川労働基準協会会長

2 来賓挨拶・紹介

西川太一郎 荒川区長

神野 敬一 足立公共職業安定所長

渡邊 富雄 東京労働局労働基準部 健康課長

3 安全衛生表彰・表彰披露

足立労働基準監督署長表彰（事業場賞・個人賞）

東京労働局長表彰披露（事業場賞）

— 休 憩 —

4 特別講演

「知っておきたい腰痛の知識

（新たな視点に立った腰痛の捉え方と対策）」

東京大学医学部附属病院 22世紀医療センター

運動器疼痛メディカルリサーチ&マネジメント講座

特任准教授 医学博士 松平 浩

5 大会宣言

三浦 敏男 建設業労働災害防止協会東京支部 足立・荒川分会長

安全衛生表彰受賞者名簿

足立労働基準監督署長表彰

事業場賞

サイバーコム株式会社 東京オフィス（荒川区）

東京交通サービス株式会社（荒川区）

荒川電気事務所

荒川車両事務所

荒川保線事務所

株式会社ヤマゴ（足立区）

個人賞

井上 浩 足立荒川労働基準協会長

岸澤 武春 陸上貨物運送事業労働災害防止協会東京都支部会荒川支部 支部長

藤倉 泰徳 陸上貨物運送事業労働災害防止協会東京都支部会足立支部 支部長

山田 力 建設業労働災害防止協会東京支部 足立・荒川 分会 前分会長

東京労働局長表彰（披露）

奨励賞

吉野石膏株式会社 東京工場（足立区）

[50音順・敬称略]

☆講師紹介☆ 松平 浩(まつだいら こう) 医学博士

1992年 順天堂大学医学部医学科卒業 同年、東京大学医学部整形外科教室に入局

2009年～ 関東労災病院 勤労者 筋・骨格系疾患研究センター センター長

独立行政法人労働者健康福祉機構 本部研究ディレクター兼務

2014年～ 東京大学医学部附属病院22世紀医療センター

運動器疼痛メディカルリサーチ&マネジメント講座・特任准教授

日本整形外科学会 専門医・リウマチ医・脊椎脊髄病医／日本腰痛学会 評議員他

平成24年度「運動器の10年」世界運動・普及啓発推進事業 奨励賞受賞

「新たな視点に立った21世紀型・腰痛予防対策の開発とその普及啓発の推進」

著書：『新しい腰痛対策Q&A21』公益財団法人産業医学振興財団(2012)

『「腰痛持ち」をやめる本』マキノ出版(2013)

『ホントの腰痛対策を知ってみませんか』公益財団法人労災保険情報センター(2013)



大 会 宣 言

足立、荒川地区における労働災害は、関係者のたゆまぬ努力により長期的には減少してきたが、平成26年においては10月末日現在で休業4日以上死傷者数が495人であり、前年同期比で35%の増加と、憂慮すべき事態となっている。また、交通死亡災害も1件発生し、尊い命が失われている状況にある。

個々の災害を見ると、依然として基本的な安全対策の欠如や不安全行動を原因とするものが多数認められ、また、景気回復による経済活動の活性化、インフラ再構築等に係る工事量の増加、危険・有害原因の多様化、労働者の高齢化等とも相まって、今後、さらに増加することが強く懸念される場所である。

一方、労働者の健康問題についてみると、定期健康診断結果による有所見率が昨年は57.9%であり、全国・東京の割合を大幅に上回っていること、過重労働による健康障害やメンタルヘルス不調などの健康の問題、化学物質による健康障害の問題など、心身両面にわたる健康確保対策のより一層の充実が求められている。

このような状況を踏まえ、今一度、労働の場における安全と健康の確保の重要性を関係者一人ひとりが深く認識するとともに、地域全体にその必要性を広く浸透させることにより、労働災害防止と健康確保に一丸となって取り組むことが必要である。

昨年4月から第12次東京労働局労働災害防止計画がスタートし、本年度は、その2年目「2nd Stage (セカンドステージ)」として、「Safe Work TOKYO」をキャッチフレーズに「安全・安心な首都東京の実現」に向け、すべての関係者が「労働災害は本来あってはならないものである」との認識を共有し、それぞれの立場に応じた責任ある行動をとるよう求めている。

本大会を契機に、「労働災害による被災者をこれ以上出さない」という決意を新たにし、すべての関係者が、一丸となって労働災害防止に取り組むことをここに宣言する。

平成26年11月6日

足立・荒川安全衛生推進大会
参加者一同